

問題

枕草子「験者のものの怪調ずとて」

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

験者のものの怪調ずとて、いみじうしたり顔に、独鈷や数珠など持たせてせみ声しぼり出だして読みぬたれど、いささかさりげもなく護法もつかねば、集りて念じぬるに、男女あやしと思ふに、ときのかはるまで読み困じて、「さらにつかず。立ちね」とて、数珠取り返して、「あな、いと験なしや」とうちいひて、額よりかみざまにさくりあげて、あくびをおのれうちしてよりふしぬる。

※ものの怪：病氣や不幸をもたらす悪霊。 ※調ず：悪霊を退散させる。
※独鈷・数珠：仏具。 ※護法：護法童子。 仏法を守る鬼神。

- (1) ①を口語訳しなさい。
- (2) ②について、男女はどのようなことを「あやし」と思ったのか。
- (3) ③の口語訳として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 今さらつかない。 イ 全くつかない。
ウ 今さらつくだらうか。 エ 全くつかないことはない。
- (4) ④の意味を答えなさい。
- (5) ⑤から読み取れる修験者の様子として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 祈祷が成功してほっとしている様子。
イ 祈祷の効果が表れずうんざりしている様子。
ウ 祈祷の不成功を責められていらいる様子。
エ 祈祷をさらに続けようと意気込んでいる様子。

解答

枕草子「験者のものの怪調ずとて」

- (1) (例) たいそう得意顔で
- (2) (例) 修験者が読経しても、もの怪が退散する気配はなく護法童子もつかないこと。
- (3) イ
- (4) (例) 効果がない。
- (5) イ

原文・口語訳

枕草子「験者のものの怪調ずとて」

験者のものの怪調ずとて、いみじうしたり顔に、独鈷や数珠など持たせてせみ声しぼり出だして読みぬたれど、いささかさりげもなく護法もつかねば、集りて念じぬるに、男女あやしと思ふに、ときのかはるまで読み困じて、「さらにつかず。立ちね」とて、数珠取り返して、「あな、いと験なしや」とうちいひて、額よりかみざまにさくりあげて、あくびをおのれうちしてよりふしぬる。

【口語訳】修験者が物の怪を調伏するといつて、たいそう得意顔で、(よりましたに) 独鈷や数珠などを持たせて、蟬の鳴くような声を絞り出して(経を) 読んでいたが、いつこうに(物の怪が) 退散する気配はなく護法童子もつかないので、集まって祈念していたが、男も女もおかしいと思つていると、(修験者は) 時が変わるまで(二時間も) 読み疲れて、「全く(護法童子が) つかない。(あっちへ) 行ってしまえ」と言つて、(よりましたから) 数珠を取り返して、「ああ、全然効果がないなあ」と言つて、額から上へ髪をなで上げ、自分からあくびをして(物に) もたれかかつて寝てしまったの(は興ざめた)。